■東京スプリント（JpnIII）アラカルト（過去全 33 回の分析）

※第 1 回（平成 3 年）から第 19 回（平成 21 年）までは「東京シティ盃」の名称で実施
※平成 21 年は同年に第 19 回（東京シティ盃）、第 20 回（東京スプリント）を実施。よって本稿の分析対象は過去 32 年間の計 33 回とする。
※第 1 回（平成 3 年）から第 11 回（平成 13 年）まで、第 14 回（平成 16 年）から第 16 回（平成 18 年）までは 1,400m で実施
※第 12 回（平成 14 年）、第 13 回（平成 15 年）は 1,390m で実施
※第 1 回（平成 3 年）から第 19 回（平成 21 年）までは 1～3 月に実施
※記録は令和 5 年 4 月 5 日時点

■1 番人気馬の安定感が際立っている

単勝 1 番人気馬は 16 勝、2 着 7 回、3 着 3 回で、3 着内率が 78.8%、単勝 2 番人気馬は 3 勝、2 着 6 回、3 着 3 回で、3 着内率が 36.4%、単勝 3 番人気馬は 3 勝、2 着 7 回、3 着 5 回で、3 着内率が 45.5%となっている。単勝 1 番人気馬の成績が非常に良いレースだ。

■3 分の 2 にあたる回で 3 番人気以内の馬が勝利

過去 33 回のうち 22 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 1 回ある。

■高齢馬の優勝例も少なくない

馬齢別の勝利数を見ると、4 歳が 6 勝、5 歳が 8 勝、6 歳が 9 勝、7 歳が 7 勝、8 歳が 1 勝、9 歳が 2 勝となっている。幅広い年齢層から優勝馬が出ているレースと言えるだろう。

■2 回以上の優勝経験があるのはフジノウェーブだけ

複数回の優勝経験がある馬は、第 17 回（平成 19 年）と第 19 回（平成 21 年）を制したフジノウェーブのみである。“連覇”を達成した馬はまだいない。

■牝馬、外国産馬とも 2 勝をマーク

牝馬の優勝例は第 24 回（平成 25 年）のラブミーチャン、第 27 回（平成 28 年）のコーリンベリーと、2 回ある。また、外国産馬の優勝例も第 21 回（平成 22 年）のスーニ、第 26 回（平成 27 年）のダノンレジェンドと、2 回ある。

■騎手別の歴代最多勝記録は「3」

騎手別の勝利数を見ると、3 勝の石崎隆之騎手、内田博幸騎手、早田秀治騎手、御神本訓史騎手がトップタイとなっている。

■調教師別の歴代最多勝記録は「5」

調教師別の勝利数を見ると、5 勝の高橋三郎調教師が単独トップ。小野次郎調教師、高岩隆調教師が 2 勝で 2 位タイとなっている。

■優勝例のない馬番は 15 番のみ

枠番別勝利数を見ると、1 枠（7 勝）が単独トップ、4 枠と 7 枠（各 5 勝）が 2 位タイ、2 枠と 3 枠（各 4 勝）が 4 位タイとなっている。また、馬番別勝利数を見ると、2 番（5 勝）が単独トップ、3 番と 6 番（各 4 勝）が 2 位タイ、1 番と 8 番（各 3 勝）が 4 位タイだ。なお、未勝利の馬番は 15 番だけである。